

501 屁への河童かっぱ

なんとも思おもわないこと。するのがとても簡単かんたんなこと。

502 弁慶べんけいの泣なき所ところ

強つよい人ひとのたつたひとつだけの弱じやくてん点てんや急きゆう所しよ。むこうずね。

503 片鱗へんりんを示しめす

優すぐれた実じつ力りきや知ち識しきの部ぶ分ぶんを少すこしだけ見みせる。

504 判官はんくわんびいき

運うんの悪わるい人ひとや弱よわい立たち場ばの人ひとに同どう情じようしたり、味み方かたしようと思おもう気き持もち。

505 棒ぼうに振ふる

めつたにない機き会かいを逃のがしてしまつたり、それまでの努どり力りきや苦く勞ろうを無む駄だにしてしまふ。

506 頬ほが落おちる

とてもおいしいものを食たべたときに使つかうたとえ。

507 墓ぼ穴けつを掘ほる

自じ分ぶんの立たち場ばを悪わるくしてしまふような原げん因いんを自じ分ぶん自じ身しんでつくとてしまふ。

508 矛ほこ先さきを向むける

言いい争あそうときなどに、攻こう撃げきの方ほう向こうをそちらへ向むける。

509 骨ほねが折おれる

ある仕し事じに時じ間かんや手て間ま、労ろう力りきがかかつて、困こん難なんであつたり、苦く勞ろうしたりする。

510 骨ほね身みを惜おしまず

苦く勞ろうや面めん倒たうを嫌いやがることなく。

511 骨ほね身みを削けずる

体からだが瘦やせて細ほそくなつてしまふほどに、一いつ生しょう懸けん命めい苦く勞ろうしたり努どり力りきしたりする。

512 骨ほねを埋うめる

ある一ひとつのことことに人じん生せいをささげること。また、ある土ど地ちにずつとどまつてその生しょう涯がいを終おえる。

513 骨ほねを折おる

一いつ生しょう懸けん命めい努どり力りきし苦く勞ろうする。嫌いやがらずに人ひとの世せ話わをする。

514 洞ほらが峠とうげを決きめ込こむ

物もの事ごとのなりゆきを見み計はからつて有ゆう利りな方ほうに味み方かたしようとはつきりしない態たい度どをとる。

515 盆ぼんと正しょう月がつが一いっ緒しょに來きたよう

うれうれしいことことや楽たのしいことことが続つづく。とても忙いそがしい。

516 枚まい拳きよに暇いとまがない

数かずが多おほすぎて数かずえ上げたらきりがない。

517 魔まが差さす

ふと何なにかの拍ひょう子しに判はん断だんや行こう動どうを誤あやままり悪わるい考かんえが浮うかぶ。

518 間まが抜ぬける

肝かん心しんなことが抜ぬけていて、ばかばかげて見みえる。

519 間まが悪わるい

①運うんや時じ機きが悪わるいこと。②体てい裁さいが悪わるくて取はずかしく感かんじる。

520 巻まき添ぞえを食くう

関かん係けいのない他た人にんの起おこした事じ件けんなどに巻まき込こまれて、損そん害がいを受うける。